



54  
1816

大正九年九月廿一日  
東京府立第一女子高等師範学校  
校長 佐々木 謙三

大正九年九月廿一日  
東京府立第一女子高等師範学校  
校長 佐々木 謙三  
事務長 佐々木 謙三  
庶務長 佐々木 謙三  
教務長 佐々木 謙三  
訓導長 佐々木 謙三  
体育長 佐々木 謙三  
音楽長 佐々木 謙三  
美術長 佐々木 謙三  
衛生長 佐々木 謙三  
庶務長 佐々木 謙三  
事務長 佐々木 謙三

大正九年九月廿一日  
東京府立第一女子高等師範学校  
校長 佐々木 謙三



門ル2  
號3181  
卷



乙丑の秋酷暑不往日ニ僂焉として所為ある事ありては  
晋西亞よりゆくる光大夫儀吉を招て貝類渠窶小あり  
考し事ゆき向ふ意する事皆的実なる如し大抵西北航  
市と務の國多く船主と重次或ハ衣別ことを行ふ  
光大夫船頭といふとて初彼國見事輕く譯人  
某子知らず終に隨て彼王都に至り國小ゆむ事と請ひ  
ゆきあふ及て女主子貝也既して黄金鑄るメクリ  
とふ器と賜ふ女主臨朝三十年寅多として此器を賜ふ  
之の光大夫もも二人也と其寵異知るべし又譯人  
博通してよく十七國の風を解して是我事と光大夫  
小質して多益とする事ありや然る光大夫

東洋大學圖書印  
第34.3.4号  
藏書



鄙人也もより士林官達の事と不知旧史禮文も涉らん  
輒彼ら益ありとする果して如何則今此も聞所も復  
猶彼ら我を求るも同一あるを知る唯己が彼と見ざるもの光  
太夫も姑とて姑くこゝと記して還て一梅堂に足す  
然も俗を見て政と察し風を聞て志と量らる識者又  
別を得る所あり人も亦知るべし彼寄語の如きは既にこゝ  
に録するものあり



此條原本五十五  
五ヶ條下在

一光右史初アミシールツカより我が國の度とて海上千四  
百里とてえてカムシアーツカに至る或カニサスカ又カムサツトカ山川  
三百七十里とてゆるキギリに至り又海に浮ひ八百里にして  
オホツカに至り山道一千十三里とてゆるヤコーツカに至る  
是我夜國と稱する所は氷河二千四百八十里を流す  
イルコーツカに至る是より陸行五千八百廿三里ありて彼  
國の王都ベテルボルに至る此よりあり巴<sup>ステ</sup>は萬一千八百九十  
二里に終る女主人又えて親く海國と稱してゆるキレ  
又てゆるオホツカに至りこゝに於て穢して我子モロは  
至りてゆるこゝとてゆる智國の小知路のりよオホツカ  
より子モロとて九千九百八十里程ありてゆるキレは  
歴せし間海を以て鄙より兩都とて諸島縣村



落藩鎮のふくしきもきて関塞障塹堤渠儲備  
倉糧等の類とす

一魯西亜の女王ハ前王の妃ハ國俗王卒して妃存すれど繼立  
其女王卒して如くハ老して後始て太子立成ハ王子男  
ありし如きと云ふと云ふと云ふ大婚ありし王子純正ハ  
王室三家あり後統の傳へり三家とナリキことハ祿秩  
ありて采邑あり官政はあつし其國時して女王純  
がらんとハ女毒なるハ似たり又王存して妃亡すれハ更ハ  
めとるるありけり

一王臣下ハありしハ其王ナラハヘーリトニルセウといふ爵に至る  
大臣三員ありけり可あるものあはれめしきと云ふ外  
國より不例もあり下ヲ揚す又ナリキことハめしきと云ふ

一甲者ハあると近親の婚とゆふハ梅またに之を嫌ふ

一同様と云ふハ似たり女王子メツ國の子ハ太子の妃又子メ

ツ國より云ふ

一女王の名エーカテリナアレクセウナ六十三 我實政四年ハある年ハ云ふ

太子の名パールヘートロリツサ三十九太子の妃の名ニリヤヒヨ

ウトロナ太子の子の名アレクサントパールリツサけ子イキリス國ハ

其子ハ其の約あり

一王とインペラトルと稱すハ天子と云ふことハ女王とオススニヤ

太子とウエリコイキニヤチ妃とヘリコイキニヤチと稱す

一女王ハ日時麻糸年ニ度々天皇とおする事又一度ハ二カ  
キ野馬ノ人老臣二人藥のよき方ハ外随後五人ハ  
不道其死七日間ハよき方ハ天皇とお 及遊



お駈ソウダテと云軒き表官つてむ知存と云せ人此よあ  
へん多の木の多とぬきて服入たさきあ方「ヨウ進」五車の  
りるを流の「おまらぬ」なるなり「國薄儀橋さく」なる  
事か「こま」下石長ホと云りて「後僕」なり

一王の宅とドーシツと云ふ士庶の事いほめてイスバと云ふ王の寺を  
ツールと云ふ士庶の寺といへくツエリコト云

一王居城とかまへて士人高西貝の事いほめて「ヨウ」王居と云大  
あつのも「俗」て「樓居」といふ王ハ六層石成ハ「初」上より  
あつて上より「四」の我邦の二町申もあつて「邦舎合壁」を  
「ドーシツ」門名倡鼓あり大臣執政退朝よりある又妻  
子と推けて云飲す「Chapel」なる處いほめて「The Palace」

一モスクワを旧都と云廟あり門は大方の自鳴鐘をいほく

ペテルホル宗廟の門より又あり

一ペテルホルを彼邦の新都と云北極五十九度六分の地を  
極陸海寒の地とペトルと云ふ中島の英主とて「種」の  
切徳あり聖智神氏とも可称細民もあつて今「  
威風」といふのよ「昔」地大蛇あり生民となりや  
ませ「と」ペトル軍騎とて「鐵」といふ斬殺「開」て都  
と云海河の便と云ふ「字」といふ「國」といふ古  
の百倍「一」萬國を集めたるものなり「不」通「由」日本  
よ「通」る位のものの中は「先」より國人志益大と云  
一ペテルホルを海ある河ありを河と云「廣」く「先」より大橋を架  
す大橋の邊に水も流く諸蕃船入ある舟の橋の例よ  
ペトルの像と云威風と云ふす則騎馬鐵と執るあり



蛇ありメクリありふ馬もは信と請はる

一王居別殿宮廟壯麗と云ふも門は扁と不我毎  
門守幸銃と持て二人まのこ敵て人と濺せし先  
右史又化の外國人も皆宮門は出入り或ハ國人も伴  
して王宮後園を遊び女王の廁はうらるるを中  
おも別殿ハ五人浴覧の下すりも一俄は女王の  
あれた載くおも云と抱はたまふは車のかはは  
と云ふ事

一王居改りすと高議するのいふも一令令と云ふは  
官のものと云ふ別は政府をて一と相列す持する我  
ハ者ありのたよる

一別殿ハ河中に在る所遊賞の地と云ふ石人と造て校

乃双く立大サける人のめ一皆裸體より陸陽と云ふは女王  
けとまは紙と云ふははけて是と持中よりキリス女女王の  
不蠟石より他る美人ありてユミおはぬす一は生動す  
るらぬ一抱ておの男女も中より陸陽と持持する  
ものあねおんて持一はては自とす事の一  
又ビントロと云ふは一は水と噴くむるものおは  
樹木ハ密葉なるものと云ふ一かりことあり梅観のめきハ  
茨と梅の孔雀と云ふは不園を説と云ふこと  
一其國五月の終りよりあること王必ツワルスコイエセロと  
いふは宮も福も國極潤陸海寒こととたはは時  
いふは陽と云ふは暑熱の極我邦の四月は  
はすし一は暑熱暑も候は宮の六月の終り日



よむなり又必へテルホルは移るは寒寒を冷下室りれらるる  
の間古八里石を移るなり ありは花樹を植ムラ  
ふ蠟石を飾る石を文あり蠟石よりなり 思き石は  
て他る燈籠とんたありて一基とたたのまを又た  
ありて一基とたのたのまを再買若干ありき廿五を令  
斗とびのくモノオガと稱すは巨多とてこの詞之主臨政  
三十年ありて世をせよムラハ常人の形は移る  
ものこ又ばムラハ斗とて河名も臨て親の建美麗  
いへるは水氣とて瀧流とていへるは  
よりいへる水氣とて瀧流とていへるは  
一。テルホルとモスクワと四年の二なるお袖ることあるより一あり  
皆地名く王の年を指してサといふ言を加ふ今如主へテルホル

お其サへテルホルといひ旧都といひモスクワといひ 一。モスクワ  
に遷るはサとモスクワといひてへテルホルのサこの字とあるなり  
モスクワを我邦よりムスコビヤと唱ふるなり古き都あり  
街狭く縦横斜遍及とて迂回迷ひ易し 一。テルホル  
を阡陌といひ其茶局のこと 一。都下甚廣くは出  
移りするは四方の郊は出るなりやすきなり 一。我京師は  
比るはいさゝか瀧ありなり 一。  
一。市布帛衣服器物等を賣る者ありて多し 一。樓上より下を  
列肆樓上は樓乃のめきりので造り或は三層より他を  
相とかりんとするものありては中穀酒  
肉魚惣の惣ありてあり  
一。新都諸の國の高船輻湊す來船下渡すといふ



其の官も亦多しるゆゑに凡通する國々兼る彼河も  
 船と建つて己の船を繋ぎし只船主のこゝろに  
 街衢を肆とつて己の國人を齒しお姫婿といひて  
 隔る事あり都下のこゝろに四方を遊りまはるも極まる  
 るあり又各國より俳優をつぎ來り戲場をつくりて  
 國人のえらるるも互に勝ふ事あり本國のより戲場  
 ありまはる白昼といふ戸を閉時し燭をとりにする事こ  
 の國の通する所は皆て記せず好と造りて少くせむ  
 の正之國といふ光を史の所記僅に十餘の肆とザルといふ  
 和蘭 ガラス スト オトニヤ 子メツ スエツ  
 トロツカ トレツコイ モニコリツ アラツハ 歐羅巴 島 黒奴  
 べごがり 是我國なる黒奴國に

外國の寺ハイギリス一 子メツニ フラツニス一 五箇ハ  
 記ヤウイギリスと彼國といふアコギリスと唱ふ  
 一北京の貨物ハ多く満洲より廻り來る又通商す  
 一朝鮮通商すといふ肆あり茶錦木綿布織する物  
 布の類多し朝鮮のものと  
 一高貴は燭火と石設又屏障あり故をそとて徒  
 居る物好とちる如き皆殊物とす但我國の戲と  
 大不同小異に我國より來りて鞠と云ふは彼國よりハ  
 移り來りて極盛なりあるは飛ぶる事と又蹴る事のより  
 是とてやとてそとてを海々の具とす  
 一都ハ後て屋室と他るのよて園庭植木ありてありお大  
 わらふ只一字とする玉居る層自館の大ありといふの四五



層或ハ三層或ハ二層すて樓居と好む者五層なる  
ものゝ下ハ牛馬と畜或ハ地味新ふと云ハ二層目と厨  
裏と一又下をなすと云ハ三層と侍四層と云ハ主人居  
上層と器物と貯するをす多量樹と好或ハ火と貯す  
葡萄と熟セシむ工とあるものハ火力と増増して一椀して  
上校の室ハ上層より出て己ハ禁熱し中校ハ下層より出  
て青く下下の校ハ花さくめハ他ハものを儲く珍奇遠物  
と扱弄す有力者ハ互ハ庭と云ハのをゆかておぼるると  
厨又多ク三四層の上ハ設四窓すてビドと障子をす室  
隅ハ洞より入るる筒と他の下より上層の屋上ハ串出  
し筒の上と西後面とより入る毎層ハ筒の中より火とく  
事寒暖をほひきもありあり格をすの時とたけ樓上

たすは我邦三月南風を吹付のめ一始久すは煙さると云  
こととペーチといふ所あると又今サ勃のこを吹ゆは煙と云  
むる切く寛の煙といふよりペーチハ入る上より出る  
後僕風真してペーチハサ勃と加ハ主人登起して氣を吐  
て白く入るるとあねサニヨルとて臣僕と吐サニヨルとハ凍  
く寒く後ハ陋室といふたまといはしむ唯ハ  
一厨の造り一方と云ハし膳と云ハる推し長き向海大  
小ハははといふ一丈あるやうにを壁の上より前後渡の  
さへはは丸くいくつも穴と云ハる各蓋と他り在中ハ  
の上の厨より上ハ火四のたあるきせるまたと云ハるく行  
書籍と懐しして煙と吸書と聞いとも縁と云ハる  
静しきとつめ腸と云ハるまはする心なり一特と云ハる



一 一丁一丁のりてまきとほすのりあんとていふより 妻もよ  
あまうらひの并倚しておぼろしくて散てさゆす隠す  
裳とを履はく入るもきりあまらぬすてて若生よあつて  
は頼ぐさむと白果まのりものまゝ 只も人富むま  
ひるものやとていふ

一 一丁の掃蕪とすつてま心申夜埃と申又田の肥まするは  
る敷め ともて田まゝく人矢ハ海上程里よのせり  
て埃を併畜まゝくして田まゝるれとて

一 自鳴鐘子ツケ土まの形とてまぬむ又方鏡と一室よ  
二三面をまのり四五子ツケ土まハ七八或ハ十飽と魚行  
か又必天主の位と設く天主のまの燭をまゝるは蠟と不用  
イトト鐘よ油と盛綿と申まゝて火と息す油減すは

物降て下り上るは降て上る油をまゝ減さるよとて又蠟ハ  
まゝ年見とあててまゝ天主まゝむよ 木実よりまゝる  
蠟極くまゝきとて

一 土と高といふは糸の飾と解く凡我國の玄園といふ事とてセ  
ニヤカといふセニヤカの造り方構あつたは長階以つたりあり階  
た石つけをまゝ上るはまゝまゝ者ハ石階踏者ハ石階より  
王の宅ハ上層のまのりく一室大いよまゝ 又大いあれを張  
物とつけ取ハ四方より 三方階はイト口障子ありて  
眺むの取とす又室あま務の極のまゝと六尺許ありて二  
建格よ又狭まゝつとまゝ何の飾もと并せすといふ  
は二物高賈いふ富豪といふまゝるあといふ  
一 度人ハ土人をりて相係せしむ



一庶人良家奴僕の多あり 只多者未奴となり或ハ不肖子也  
こらせしあま奴僕とす事ありこらせし皆年月の如き定  
二雇賃の如く終身たりあるあり

一寺を都立寺に改むる館を設く貧乏者ありて生天寺之月  
寺より改むるをも改むるあり牆と敲牆のりより在り  
ころねとさしせりけり入次子金錢二枚とのせぬ  
一葉と親子より其日館内に榜と知 昨秋何文の  
一子或ハ東西寺幾房におきて寺に中を記し 至親  
け傍よりつて見ゆとあるありと心よりせしめり  
一性々安んじとる但親子とるを不許是既に捨る  
との法如新館に生存とんせり 此の情と怒りて志  
ある館中より乳母と至 醫者並と設長子より後て書

教且他の養護各師とてて学し 心館を定たりて左  
右の度方とつらひ知子と書ふ申は教場を至事し人  
たりて且方より後て友と扱気候一丈一書ありて子と  
生るのたより又江戸の國冬春生る子不云月嗣子  
ありて終るのたより又ある子の一子改むりて撰  
るとせん事とす其ハ許して其あり 心

一并子教とてハ二都よりとまることし 諸川縣友の  
一あり皆此及とおしてけふるあり  
一井と堀と水と汲る村ありまは少くまは六河を  
飲む  
一浴は皆石を煖て水と沸きし亭室中より湯具申より入て或  
ハ一或ハ偃臥して堀と扱去風は危ありたあるあり



ハ我國より本邦寺の傳最ほあり一人三後ゆ  
る後とありふる茶一盤と出し衣言雜佩とちり又  
人々のあまはる浴ハ初め身の盛ある體は不空堂  
そのお長として浴せしめてはま主人と浴はあ族匠  
みたり

一都五かゝるあり只使いくとるや假貸息と加ふ  
も又幾許とあるもの價ハ月終毎に債主にせらるの  
事ハ延びし

一王の園ハ四時の百花植莖と名づくる地とほり  
あり又下は元と地と名づくる地と煙と廻り  
陽を以て合せ花実と他は園と名づくる地ハイギリスの人  
イワニイワウイチバイコーフといふは園又他の盆樹あり

又さう物名と志さる物ハ不記梅葡萄フナト三葉  
牡丹芍薬イ子ブ菊石竹アコギヤ桜我國のみの名  
葉人より地と名づくるアコギヤの花と名づくる蜂室ハす  
て上品

一王の親族ニありナリニキコト我親王家のめしを改ま  
るは俸禄と給し邑は合ます一ハムスクハ在二へテ  
ルホルハ在王嗣ありて終る

一當雨十九等ナリニキコト與らす又諸侯卿のこもきま  
世禄もありさるあり世禄とキニヤチといふ世禄あり  
カラフといふ所謂十九等ハ  
一五ナラウスウリトニルニヤウ三人銀五万枚と給又  
邑ありは中一人の名とキニヤチギリゴレイアレクサンドロウ



千。ホチヨニキことふ彼ら背像及赤色の圖ニツ銃より  
擲するもの光をま齊ほきり圖下は揚光をまキリロよ  
向ひけ一邑我國の萬石よあらんやと問ふキリロ對て  
イツヨボリヨイといひ——イツヨハ隨ふらぬ——ボリヨ  
イも優し大にぬい解まきらぬ——いふえと地三あよ可  
あるものあねを王妃とす又女賊なし國大強ある内は出て後す  
光をまらばよし三五年あアラツバの悪奴交易のるよつき  
へテルホルの賈人革やの中くる石を又秤の目と知あゆひ  
事あり」と怒り軍艦数隻とめて攻ま賈人よ向ひ大  
銃とあう〜魯西亞自若と〜して戒嚴をせらるるや  
又一使とせせ友と向ひず賈人よも彼を〜して和解す  
さねも是都下の賈人人の世ようりての國の兵とあ

あつるあねと〜ギリコレイと彼國よやりて謝せ〜らる  
るや〜(中)ギリコレイといはゆらよ船中よて存死  
〜ギリコレイ背像一 四人色圖三 共あ〜よ除く  
オニエナラウ。アコシウ。 古一人 銀二万五千  
地アコシウある財よ二孫ありて金よてまらる松よ送し  
構と控てあらとまらる  
オニエナラウ。ボロツクク 銀万五千  
オニエナラウ。ニヨル 銀一万  
地ニヨルより侍候のこまき友よあるエチウタことふ王の近  
側よ仕あることと金よの福ある繩の松あるとの佩  
以上四等諸侯又卿をまらるいふ屋きりものぬ 車六馬  
と駕す



才五 デルサシ成 ヘルカセウと云ふ 銀八百

才六 ポウコウニカ 銀七百

才七 ポ、コウニカ 銀六百五十

才八 ビリメル・ニヨル 銀四百五十

才九 ニニクン テニヨル 銀同

以上天子子見ざる事との車四馬 右五等士と云ふ事ありし  
才十 カピタシ 銀三百六十 一に實八日一枚とありて給す

此以下五等アシセウより爵と出す天子より出るはあり  
才十一 ポロツチク 銀三百枚はポロツチクより以上とオス

ツポチニと稱はるる詞く人よりもく稱し又志はるる自  
分我ハオスツポチことと云我ごとき鷹とあるはあり

以上長劔と右の腰下は花劔長きとスツバカと云短と

太刀他ありとサウフと云

才十二 ポ、ロツチク 銀二百七十五 此以下劔や短

し腰間も花光と云と送りありしアタムありはあり  
才十三 クラポツキ 銀同 光と送りありし

船改はあり

才十四 ク、ラツ、ホシキ 銀二百五十 けく、ラツ、ホシキ

以上四罪と云ふ杖と加へて一室も南居セしもの罪と乳  
向す南居の間の侍統と云ふ罪をよめすは度人とする

軽らむる南居日殺の多きもの罪とするはゆるりて後と  
の職より又ク、ラツ、ホシキよりして坐敷あり地と買て已

有とすきと云ふ又陶器硝子水碓等何よりも室の類  
と買持とも同くけく下セシガトよむて地と買つて許す



オナ十五セシザント 銀七十五 セシザントよりハ諸士藩  
鎮首長ホ王朝ヨリ不及各自ヨクハシメテハ諸士藩  
よりハ下ヨリハ諸士藩と右の事ヨリハ又醫師ハ諸士藩  
ハセシザントよりハ諸士藩ハセシザント

オナ十六ウイゼノ・マキリセウ 是よりハ下銀と給ヤリ毎月  
若干と給す國邊と給する事とモトテ秩禄のすくハシメ  
あるハ其國邊ヨリ自分買テ買テ買テ買テ買テ買テ買テ  
友より買テと給する事とモトテ

オナ十七カフサシ 千八百人ハソウダテ或友ハ敗者は  
オナ十八ソウダテ 千八百人ハソウダテ或友ハ敗者は  
オナ十九重く買テ買テ買テ買テ買テ買テ買テ買テ買テ買テ  
此權ある事とモトテ國中よりハ諸士藩と自表權と示す

あるハ我ハソウダテと分けて六隊とす每隊三百人ハ諸士  
四所ハ分ち玉給同各舎あり給同榜と與け或隊ハ  
記す四隊ハ王室の宿衛と勤む一隊より百人ハ七日ハ  
一放りす交易の日ハ上直の者百人馬手系ありて王冠  
ハ入一方ヨリ下直の者百人又一齊ヨリ二隊ハ其の身銃と  
其後下直者上直者の系ありし馬手強て論ハ上直者ハ其  
の所と分ち玉給す交易の日ハ王必ス其の市中ありてハ  
其日ハ其の市中ありてハ他の二隊ハ其の別縣ヨリ又王子  
其の彼とモトテ王室の宿衛ハ其の市中ありてハソウ  
ハテと分ち玉給する事とモトテ別縣ヨリハ其の市中あり  
されども其の市中ありてハ其の市中ありてハ其の市中あり



銃と作て並立するものとあり、背のゆきとくさるる丸くつらなる  
以て丸とこめて的をこちとちとて入る事あり。一圓銃  
も他の兵器と不用甲甲と不用火銃とのこちとちとていさ  
とて一画のソウダテを斧と扱ふことある王べトルも斧と扱ふ  
戦陣の必斧銃の類と申ゆらり、他兵器いさ  
るくつら

一 十九カサカ 案十九等の名身ハ末官高尉職位のかち  
御弁せす考ねてもエナラウヨルよりエチウタを出エチウをハ王  
侍従する友之高尉位より非す又醫官官せしサントの内あり別  
縣官ホヤ、と稱せしめあり而別縣の職ハ自若と  
して故のこちとちとち十九等官職ありあきまはれり又ク  
國の彼人附といふの條ねまきまの由こちとちと考ふ十九

一 等ハ高尉位ありといふもの如し、其官職なりといふ北俗簡易  
といふも僅に十九等といふもむらむら  
一 車ハ中よりわらわらしてハ馬の車もいさる隘巷も還り  
入る

一 馬ハ相々纏あてて包するあり目と尾と蹄のこちとち  
包むるなり

一 キニヤチも世祿あるものあり高尉とも世々すガウフをきる友よ  
いさるこちとち父死すねて子成ハソウダテありあきまはれり又四房張  
つてて出身す

一 僧高尉ハ等あり  
一 一ミテレスコツポ 有驗する條ありあきまはれ高尉とありす  
魯西要の天下三四人は石区イリコツカ オホツカヤコツカ



チキリアクエスコ等、狐ヶケル一人あり

チニアレヘー 一上二等車馬と誓す妻あつたあつたす

チ三ホロトツポーフ

チ四ポーフ 車四馬以上四等か一寺に任持す死者あは

引持す 葬む生者も教化俾約する事と信以下二等ハ  
志ラツクあつたあ

チ五ヤアコノ

チ六テヤアコノ 車二馬ポロトツポーフより以下任持する事

も妻あつたあを禁せず志ラレも齋信もあり齋信と言はず  
妻あつたあを早とせず破戒の政ありれども齋すれど熟肉は  
禁す魚鳥と齋食とせず牛乳ハ齋日不嘗

一朝ハ未明子朝して日中子退く夏ハ明て朝して退くハ同

一 日中未明夜明といふも燈をいと設き燭と持あひ  
事あり 夜昼はとあつたあも夜明らるれども又街衢に  
も燈をつらぬる事

一 邑あるものハ我諸侯の如くといふも信長もあつたあ不嘗又

喜徳 陪長ハ劔と不帯

一 諸州郡は四直官とコロシイチとふ其副とフラーとふ錢賦の  
事と信長コロシイチが信する信といふもフラーは信する事  
州郡の大小も人の伊勢等より輕重のある信長は伏見大守  
縣令奉り代友ありといふ事其下は六ツウダテの事

一 賦税ハ人形子係て五九男ナシハ五十とイルコトツカ込遠  
ハ銅錢三百七十文其他ハ大伴五百文ヤコトツカオホツカハ  
錢と収めす紙皮と云すハ七四十五六より也 輝くす法



一 國俗として内外の異なるし客も妻もと携りある主も又  
 家族を構はず只炊煮の事を次公事を請け祈りと馳せり  
 も又妻女子の居りて怪らば縣官を以て宅子に訟あり  
 その門を以て主夫婦を令と卒と侍り入るるといふ事  
 としとも家族吻と容れりる不鮮志も是とも友制せり人  
 亦諒らす

一 遠州僻境に必異俗の民あり勿論其都の如きもなきり  
 ヤコツカヨハヤコド・イルコツカヨハフラツケ・トニクス・チギリ  
 ムハチユホコを以ておとくはあハホココロゲンイチおさめす別  
 お安と名各とカフラとといふ人々カフラとてるは不喜あま  
 任と五年は限り又彼異俗は皮草と駭すり友ゆりて

一 赤い心こきまらうてカフラを艱苦とてとも利又大にかせこな  
 てなとむるゝせす

一 州縣より膳飲をも席順コロゲンイチ其の寺僧にせ次小  
 フラリとて次カフラとめけり

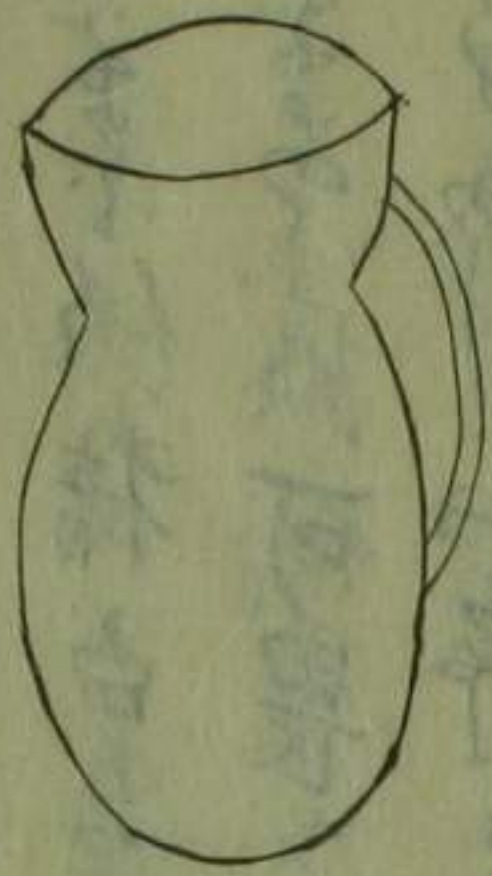
一 別縣官のありて又あつて小縣女のめまめのとて事と返し  
 只大わめらり其のまらうて治さる回し

一 女官の事いさきす光を更へテルホルを在り村寄宿せりせん  
 スツルゴシコフポーコニコヨク歴くし外國のりり影役人  
 光方丈とてれりせりしる事とてし書とよくす後ひきふ  
 者多し書とアコナロイワイナといふもと官人と光方丈  
 とかまのるる付かけ婦人必先王のあまはけてたあまあり  
 光方丈の國の言語はあらやとて唇牙吃舌國人の



めくあるのあに半の母主王をあるの極て年一かうらん  
ある志を年一か振よ王の出入する事あるつて多や  
す—スツルゴレコーフの事あり終よ婦人の信人あり事  
するさしもある—イワノナも活達ある婦人あり人と不遇  
たねなる言と出—不行あるのみあり—あるが不拘ありま  
ひるよと—てあり是宮人の風志あり—

一國トよとありて吉凶と問ありありありあり—  
一秤とメヂベとよ四費國とプートとよ何物もはプートと定  
叙ありてプートとよ何種と値とよ我國の秤とよ四費  
たるゆよ國の皮草肉牛乳も皆費國とめて賣買買子  
牛乳プートとよ—三百五拾文都とよ—四百五拾文位と  
一井とウニリとよ—そのくも—



かたせと—我邦の二升とよ—  
いかに飽す—十升とよ—ありて造  
是りオリヤウの炭あり酒熟乳  
蜜等をえくる升の値も—地邦の葉紙とよあり  
形一升とよ—十文升とよあり—  
一裁尺とあり—とよ—我曲尺あり  
是の裁尺三寸とあり—アダム等光を造りてねるま  
と和尺とあり—とよ—又他國  
の制あり—とよ—一里とよ—  
オチンヨルスとよ—とよ—  
我邦の里數は三六とよ—別彼三十里我十里有奇  
—とよ—







破るゝと少くもさるゝ 價はけの外あはて買入るゝ自れ致  
て飲るゝ又河氷と乳中に入るとは濃くして凝るゝ  
牧子似るゝ

一 屠戸とふりの別は我國より料理業の振ある所い  
付て解と割といふ一牛を解するは徳二十五年

一 罽丸と去るり駒とても牘とても其敷の毒の長短によ  
るが長の短合各違ありけりまふあはるゝの都令村  
落とめり言あるものハ雇てぬきく二人つ連きて有り  
て其敷は足と堅く解く一カを引く囊と列衣とをいせし  
指はけは徳といふ徳といふ一ちりて瘡とけいせしとするもの  
とはキリメといふ一畜すといふ

一 凡冬時士庶とも互よる飲するを務とす是寒を冷其く

一 して此の酒をいふるはわが國人酒と嗜するものあり  
飲宴といふは酔いあはれいふことなり

一 置酒盛るゝといふ下物の乾肉或ハ塩糟をいふ漬  
る物と用あはれといふ他鮓と食をいふものとて卵と煮  
ていふといふまらぬ種なるも魚と水よりけて三年ほど乾し  
て置くはりるといふて落く切るといふ二物といへんは出する  
膳具我國にはすべしを省る風は盤皿のたねをいふ  
事あり一坐久しく種をいふは洗はれていひ飯屋も  
めは酒の壺は盈いといふも卓上はあらは各その名と志  
るは客のいふをいふてやいふまは破て飲む侍者婢妾の  
類はよくまするのみあり 孟ハコップとて來齋 酬等の名は  
一 酒とカバアカといふ光たまはるる應る所 オホツカ カムシヤツカ



ペトルガナル 千ギリの酒と醸すニチノゴローの酒も四家  
ありポーチカ酒の種をさねるも我が邦より右穀類  
とよめくある物の種とポーチカとよめく種は入るは  
かさいの種とよめく又タラワといふ名酒はオホーツカより  
出り

一 茅草稗ハ西瓜 じビリより出 胡椒葡萄あり蜜柑をよハ  
アキチ 橙とよめくオトニヤより本國人たこよと嗜山年房  
大根 蕪葉牡丹より豆 じビリより出 づ豆 同葛粉はつ豆  
より出ある

一 大小麦 小麦のちとあるはよ出ある中 畑種より 一 イル  
コーツカより海列、あて大湖を湖ザモリといふも通例にて  
暖ある故大根蚕豆小麦等より出る瓜の類は地よあるは

不ぬ米大豆蕎麥麦やぐら芋 芋カルトス 是おもびてよも  
一 海濱の処より潮と着きて塩をすきんはあはくしてふくは  
都倉より山産とよめくイルコーツカ山中塩とよす石製して  
潔白一雪のこと

一 蘭人の所謂ハシ山考を他とづキアとよめく大考を他と  
ヒレイホといふ へーチを投してやくと

一 南方より出るはとつるはとよめくより出るはとよめく  
一 鹿 一 光を更かひめくつるはとよめくはたはの酒あり へー  
ホルなる世界の酒物ありとよめくはあり 一 羊ありはとよめく  
我國より草をとりてとよめくはとよめくはとよめくはとよめく  
アヒレイホといふはとよめくはとよめくはとよめくはとよめく  
きか草は牛乳と和してとよめくはとよめくはとよめくはとよめく



フキアとると三四五割も又牛乳とつけし食肉ともふ  
 総る肉と焼く事一々まじりてハ容あり或ハ他より  
 碎炮 キリロキと焼く日く粥よつろそ中へ牛乳と  
 砂糖と雜へのむ事とハハチカイとふ  
 一砂糖凝糖北京滿洲よりある事又まじりて製せし白  
 雪此れめくく用

- 70
- 一金とゾロタ 銀とスエゴ 銅とメヅノ井とふ後ハゆらとふ
  - 一銅錢六品あり 一文 小錢半文 四半文 二文 五文
  - 十文あり
  - 一銀錢六品 銅錢當十 當十五 正 正五 一百文
  - 一金錢二品 銅錢當五百 當千文也

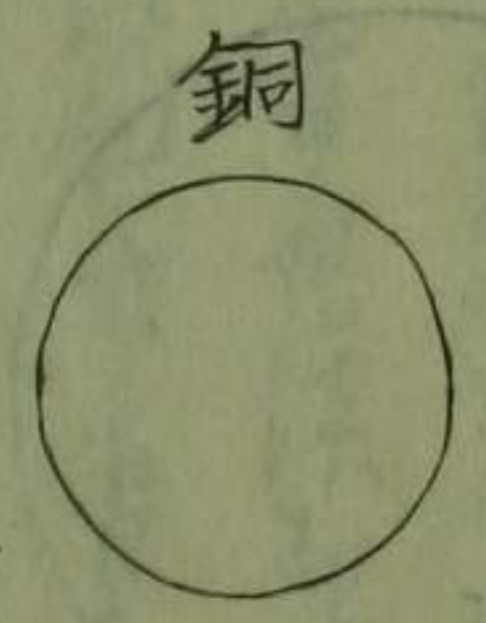
光方更齋ゆりの具せす又好事者みちあふ今蔵するもの極品  
 あり

一文之二分半



ニチノゴト鑄  
 南アメリカ地方

一文之半



エーカラリブル鑄  
 アジヤと南アメリカの界より地

背

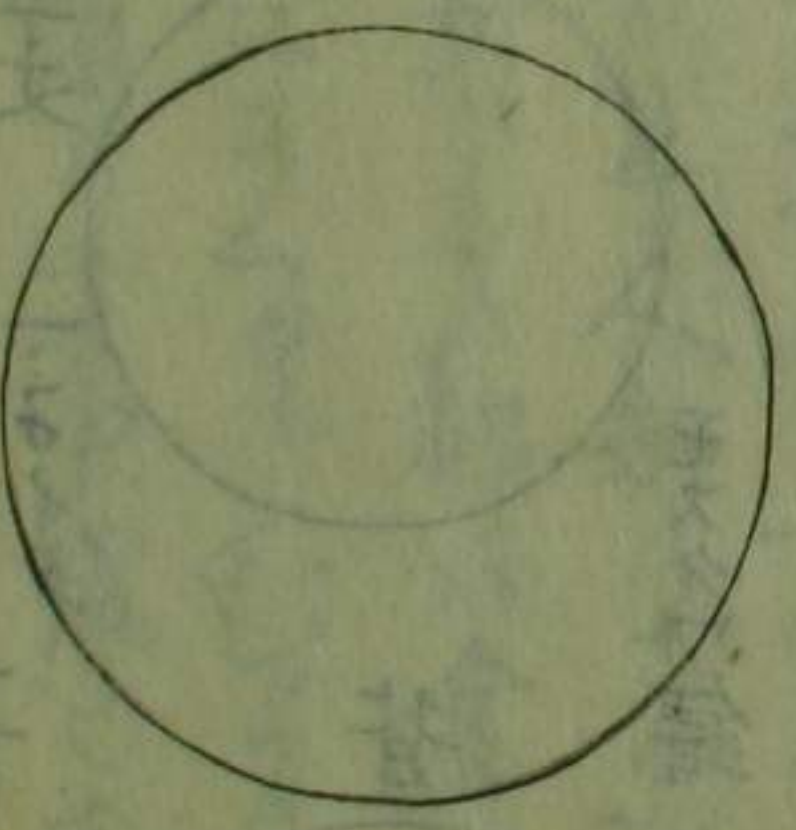


十文



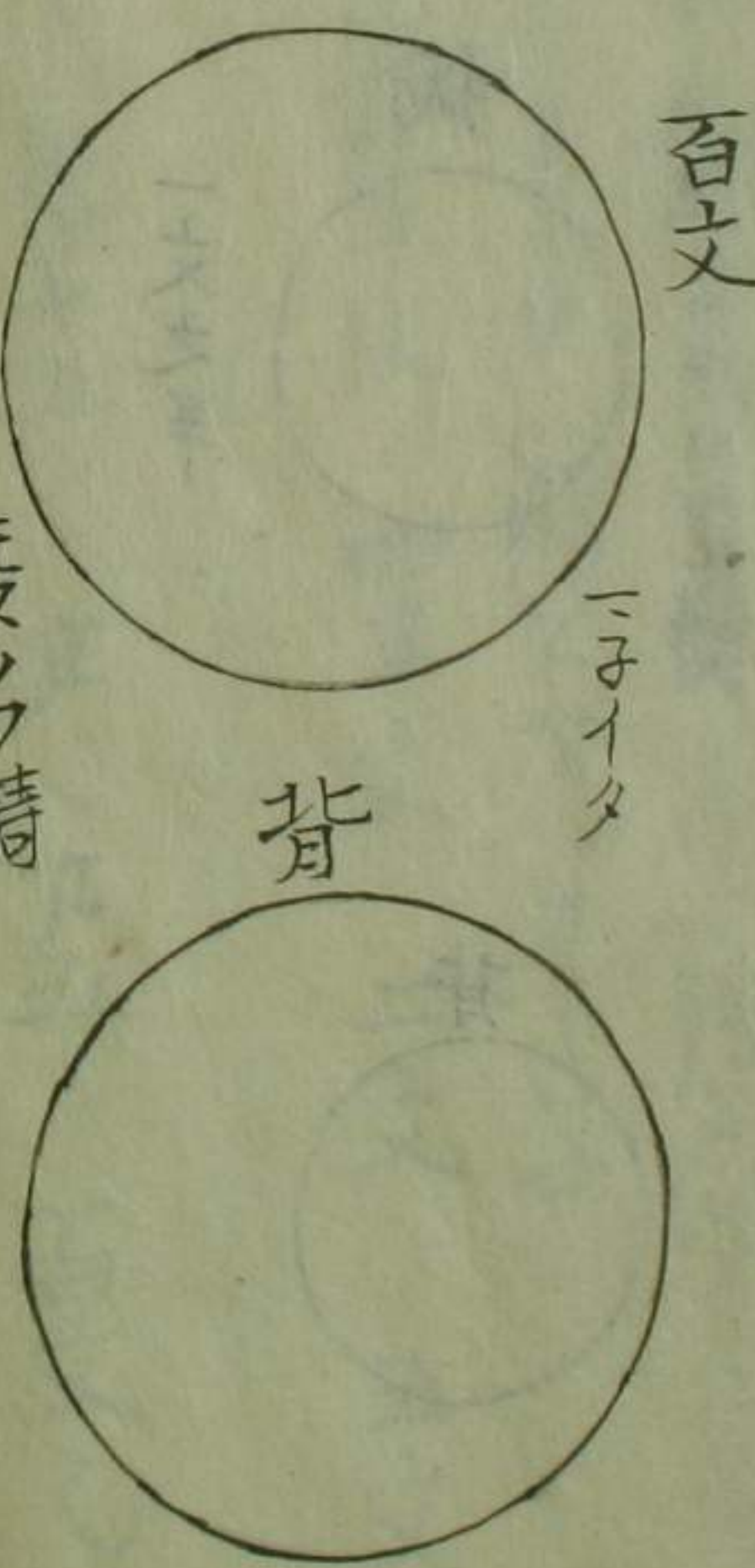
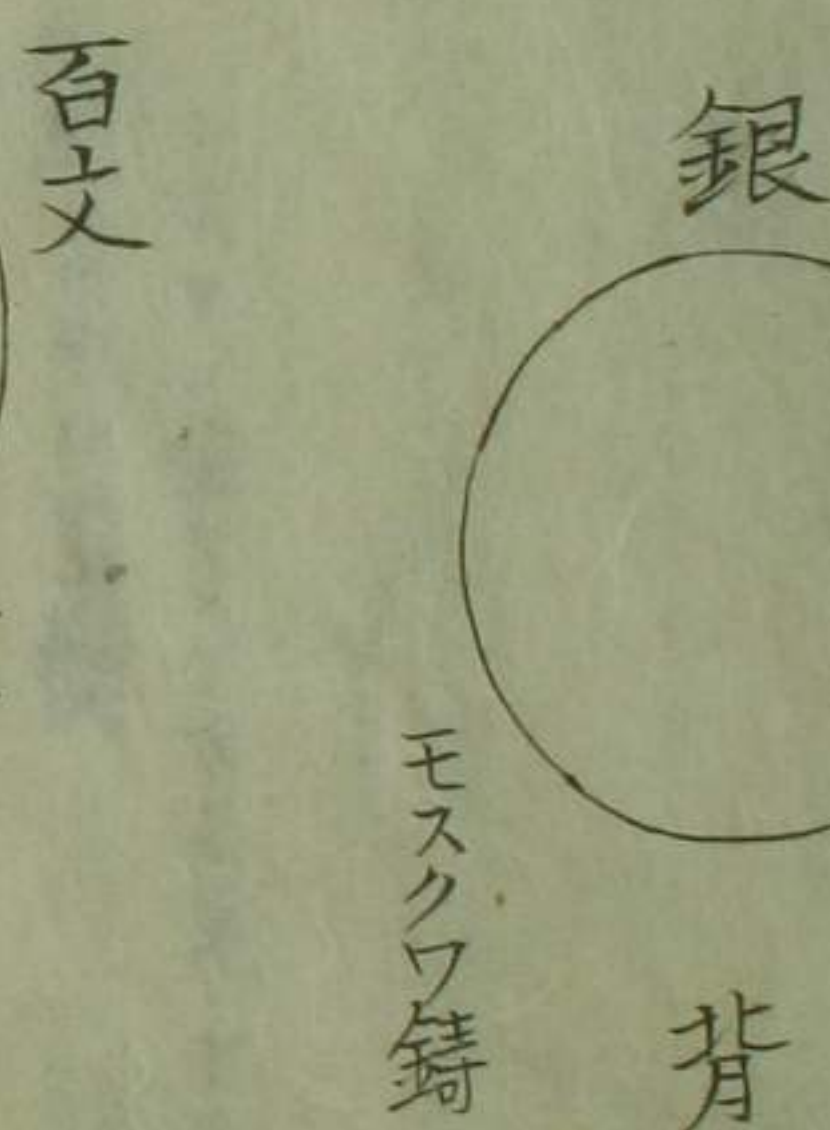
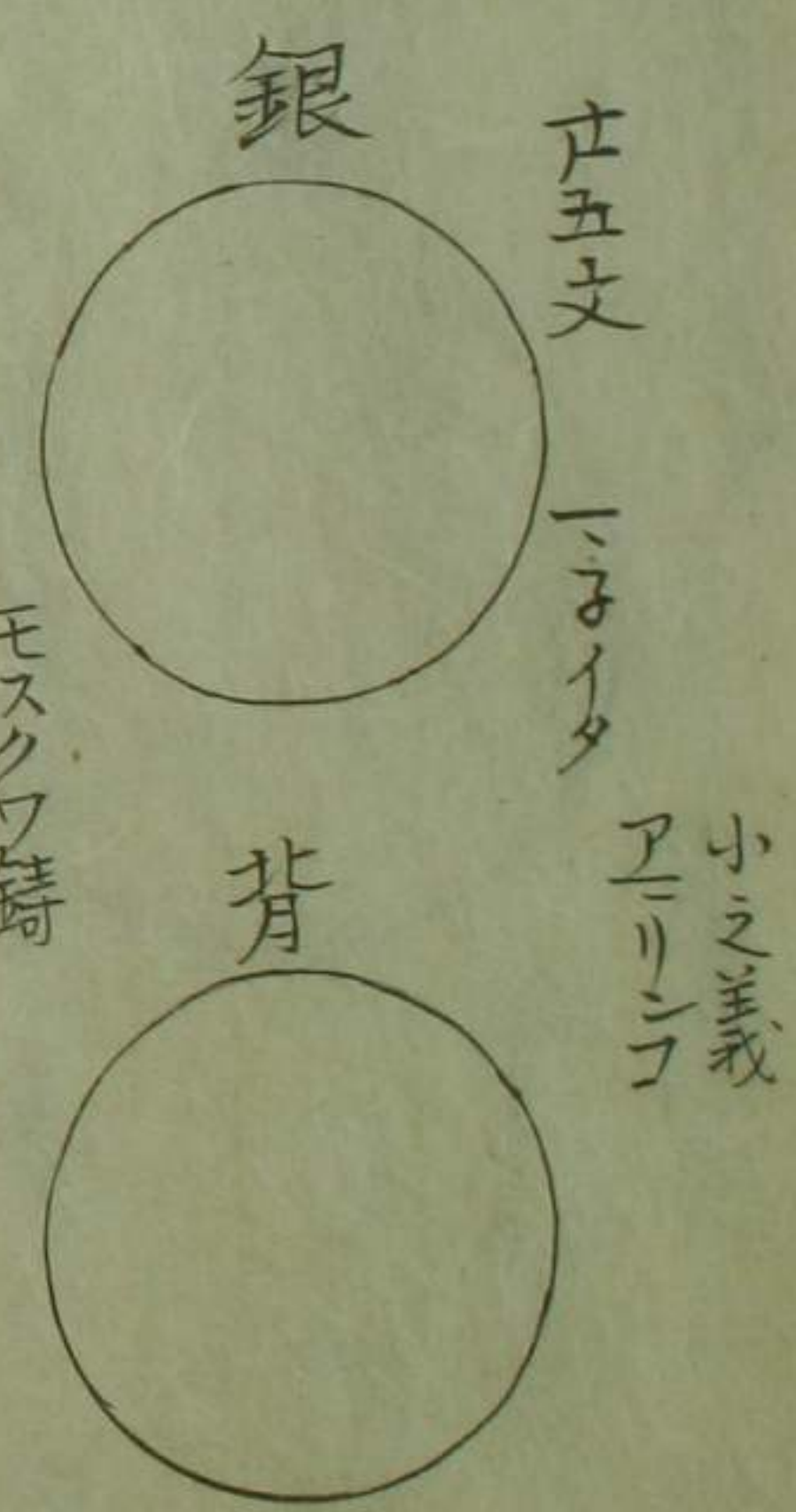
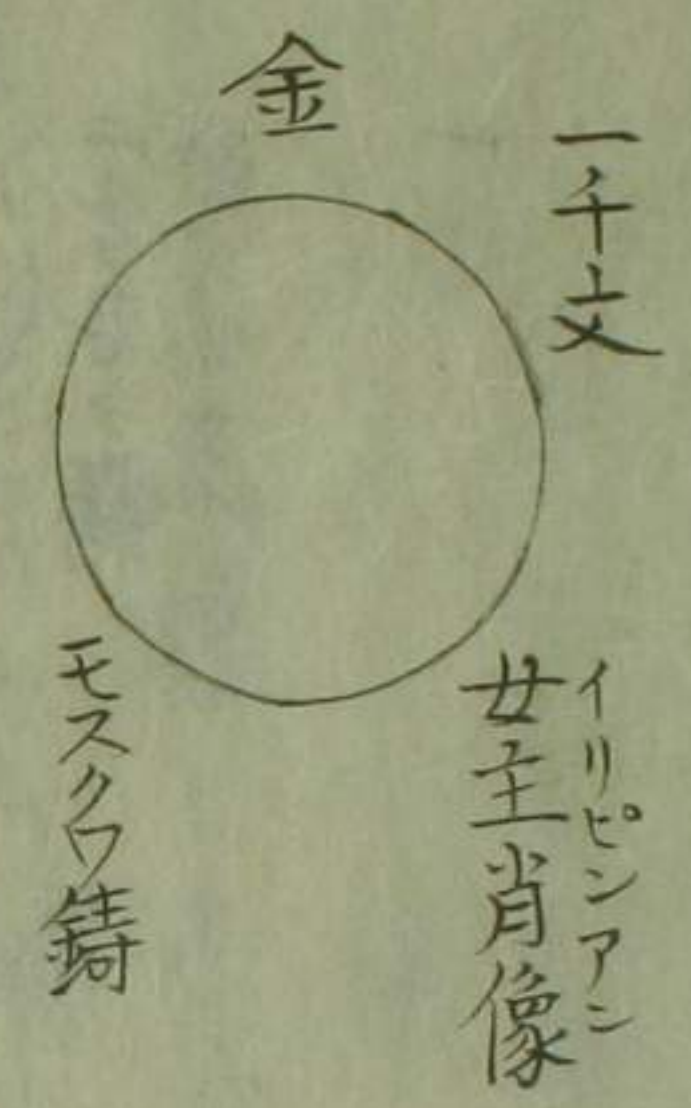
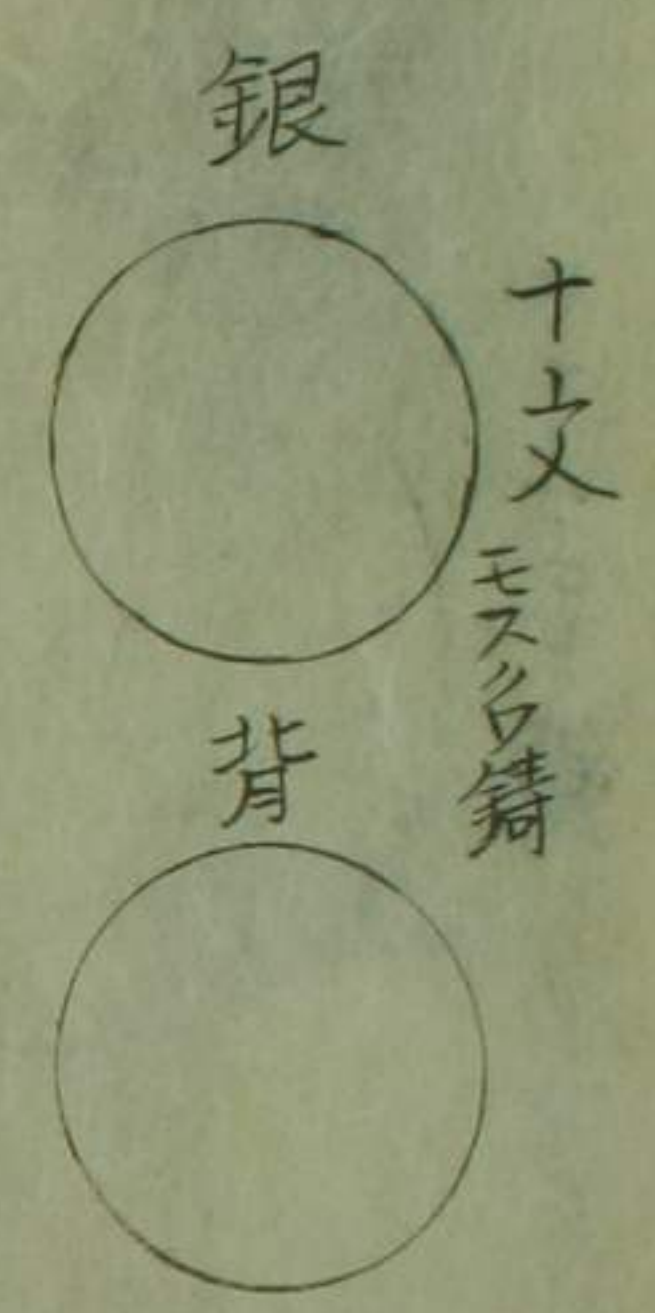
ニチノゴト鑄

背





一 <sup>オセチツキ</sup> 銀ハ王都のまあり邊鄙ありあり一 <sup>大賈豪福</sup> 大賈豪福  
 一 銀ハ換り換りありありのま大廿四五寸許友人皆自身は各々注  
 一 是と換り換り色白ありありの金銭五十又百も換り  
 一 あり黄ありありの五も換り青色淡ありあり又十五も換り  
 一 音を頗濃ありあり十は淡紅亦青色は又十五も換りあり  
 一 銀換りすといふと換りありあり一 <sup>或は</sup> 或は換り一 <sup>或は</sup> 或は  
 一 久して換り一 <sup>或は</sup> 或は官と換りありあり巨富の人皆紙  
 一 幣と便とす花する一 <sup>或は</sup> 或は金銀と一 <sup>或は</sup> 或は都ハ金銀と一 <sup>或は</sup> 或は  
 一 邊鄙少錢ありあり一 <sup>或は</sup> 或は金銀と一 <sup>或は</sup> 或は都ハ金銀と一 <sup>或は</sup> 或は  
 一 少錢ありあり一 <sup>或は</sup> 或は賤者錢令ありあり一 <sup>或は</sup> 或は官錢と一 <sup>或は</sup> 或は  
 一 銀と建て一人も五百文と限りて少錢と賣りて一 <sup>或は</sup> 或は民  
 一 便とす一 <sup>或は</sup> 或は紙幣ありあり一 <sup>或は</sup> 或は紙幣ありあり一 <sup>或は</sup> 或は紙幣ありあり





但此は錢と収るの法ありやいふ事なきなりし  
一イルゴーツカよりムスクワよりくるもの間金取山三ヶ所あり  
一カテリブルより州郡女の居る所ニテゴロドよりあり官人も  
あるありし是ハ大河より通流もよく盤昌の地ニ仕成  
辭老しし人々多く隠居す風流ありきしイゴゴロト  
あり是ハモスクワの近所ニ凡金銀銅等一山より出  
しけり其地多きことなる事いしし不知し中古スエツ  
より法を傳へけり日本を知らざるよりキリロ  
ク語りし室貨もそふて造出すべテルホル日  
後来る新強ハ何の事にて移るやきくさるなりし  
一周年十二月一日或ハ廿八九日或ハ百光を更く海を  
する年彼々千七百九十三年一月一日我實政四年壬

子十二月朔日ある其年初月亦百二月亦百三月亦百  
四月亦日五月亦百六月亦日七月亦百八月亦百九月  
亦日十月亦百十一月亦百十二月亦百總計三百六十五日  
ありき又説閏月をかくす四年より一度二月と廿九日ある  
とヤノ先閏年の之晦朔弦望等よりくるなりし人  
の年と算あるは生節一度もあらざりし一書とす  
一曆と他るの王都をかきる王都とペテルホルマスムスクワ  
とふ二都より曆とくるの曆と友僚の姓名と記し  
冊子と合冊として錢として賣たりしと書林のめき  
このこととてけり  
一曆をかきらす印本教坊秘子つらるるをゆす悉く  
官板として我國までいつ紅紙の紙友よりして他る



又諸侯高貴の人の面と云りしは主人の采色の圖と云  
 り印本あり或ハ秘陽の影ヲ落つけたるは影ハ主人  
 の影ハいづれを以て他なるかいつやうの権貴の肖像と他  
 りていふのよしするも其人は讀んでゆかんと云はよきと  
 一昼夜と百刻より又十四時とす一時四刻あり奇夜  
 の中分と一日の初刻とす日長きの極七十刻有奇十七時  
 夜經の極二十九刻有奇七時鐘と晝時とこれと持て  
 但敷敷いつつある事と不記日本さくららふは日長夜經の  
 極よりすす刻と云ふ  
 一行ハ右を貴ふ燕飲或ハ不立をお集る事あり附士と高  
 と雜すも敢て嫌えず但士ハ賤といへども右よ高と  
 富といへられたるは

一立といへ礼し 椅子よりと安んず我國の膝と履し  
 一下座よりと入てハ髪を髪へくると云ふ  
 一色ハ白と云ふ服ハ右衽胸と云ふすの衣と云ふ  
 王ハ乳上と云ふ度人の吭のまを穿つ事ヲ禁む其間ハ  
 あり鄰人の白と云ふ事あり王ハ純白貴族の等又こと  
 ありをせ顯の人白と云ふ事あり其差等ありて純ある事不  
 能但和衣白布と用カテ襪通し用カテ度人の襪と用  
 女王宗廟と拜する時ハソールと云ふ獸の皮と襪は  
 多と履す先ハ別物とソールは我邦よりいかりスめ  
 めるものも生毛を以て徳國より取て用ひ又山獸は  
 て毛もまの毛とカムシヤツカチキリ アクラエス又日本  
 つきホリシヨシカ等の爪を在 蝦夷地の肉も稀あり







ある物といふイギリス又外國よりとり来るものありて庶  
人て朝鮮より来るダバといふ綿布也  
一車ハ王八馬具他ハ前子出四馬ハ六馬者あり六馬ハ馬  
ハ又音子と加ふ又後系あり士庶出行妻子三四人同車  
遠遊子甲といふともまゝハ妻子と推す先同車ともて費  
と切さぬあり

一樂ハ胡弓と好高貴の男女好むものありし琴十五弦正  
五弦を五十弦を五子法をイギリスの樂器に瓜分して彈する  
ものありてその心と弦とて琴の背よりおきて弦を押せば  
箱の中より自ら鳴る振子也のりものこ又入りて弦はし  
て打琴あり三弦もあねもあねも編む鳴りあねも  
喜んず鐘鼓琵琶笛三弦ハ杖刑といふ時用らるる

一王伶人十七戸あり

一王伶人十七戸ありて中歌者三人を是畢丸と云事これ  
畢丸と云ぬの法男子生れて初める時よく彼國言の  
畢丸と云ぬの法は職ももるもの言田の大小又其言の壽の  
也經より生れて幾日めよ去るの法あり人も時をてし  
十七戸言子言田の畢丸と云ぬの法はひて世よりキリと説  
きて畢丸と云ぬの音声妙あり  
一凡人ハ對して歌をんものと請まハノイ<sup>新</sup>ボーといふ舊とこタ  
ライといふ何事も新奇と好むのみ只チ<sup>黒</sup>ヨル井・カ<sup>眼</sup>サ・チ<sup>黒</sup>ヨル  
ノイ<sup>眉</sup>ブルビ・チ<sup>髪</sup>ヨルイオロフ・チ<sup>妻</sup>エニチヤ<sup>欲</sup>イナノイ<sup>妻</sup>ウエニチ  
ヨ井ナ 此一篇の文人のよき歌をうてアタニガ子モロハあり  
時和人の歌とてよきものありとて光を更らすめし



時もアタムは歌とていひしそ又いつ連々貴権の人の女子  
光を更々日本より万里の外に流し風波の鞠をあひ孤  
島無人の界と海り千辛万苦十二年を経るといふ事  
長篇を飾りて光を更々教へ歌りしむ人光をばい不覚  
涙と流す後六都下は傳へんく是と歌ふ光を更々是  
とありんといは望客時ポナとて止しむポナとハ禁  
止の詞と止よといふ事

一舞ハ男二女二相連々ふすて一振りして舞ありて又  
す燕飲の時主主夫婦女子賓客男女皆自ら舞相と  
おる時或は主家の女子より賓客の前より揮賓客  
一舞ありて不喜ハ終り依りて不立わし促すも再  
三あるやむゆとるは答礼してまゝ一曲志し時

さういすゆし畢事ハ又他の人より

一歌妓あり佳歌すまぬ娘あつゆはまうす

一樂家の於雅俗解るあつゆときりす朝廷庶人を

一應て曰まきりぬ

一凡人始ておん儀必まて口と口ととあす互は口は  
開る先とポチヨアイといふおあるの時又吉節良會皆  
ポチヨアイとあす我國より目出なれといふ折節は  
事之貴賤男女と不遇死別も又然り王といふも志ら  
ざるもとけす絶至るなるとて始自の時あひと捧出  
す王指とりて堂の中を押し志うして是と嘗ま  
ポチヨアイの節とけりて位位ある人親戚のうちあつても  
者といふ事ハあるはけりて是を者のもととて又載くる



一凡僕従あるものの僕朝夕主夫婦及男女子等はして  
主人たるもの下へ進んで面す主人必しと扱て常す昏  
夜寝てしつてもさびず子平僕従出るるあはれ必し泣か  
ゆま必し面は朝夕の儀のみ

一臣僕子等たるもの具長より罪とひしをまて君主  
父兄の人の足すすうりつる謝すも憤怒とけがら時は足  
引いて扱さず已ま是とせしめて扱らふいりて己の罪  
をうてしめてさすともむる事あり

一理髪男女貴賤各殊く我國の髪ゆひといふの如き  
るは髪とすらのの髪類とすらのの髪と扱するの各別く  
一人おして兼る事あり 髪類を刺すは猪乳とぬり  
する毛散やす又いふ事あり 髪とオロソといふ

理とナイヒナといふ髪類とホロタと不利とをフレイといふ

一貴者ハ頭のあの方をすほく前カとて前カの法髪とす  
銀とぬり二寸許とのこしてとすむそのぬりたる髪は焼  
縮とよしとぬる髪の色とぬる髪は長くのとて 高月と

は多く輪は他を針とさしてよめたをよきけ之をさ者  
やといふおすめて多く巻よる髪とつる後の方とハ辨

判也別也

一して生理髪は既平建ハ芋と乾して末よりなる白  
粉とありく 芋スジャガ  
タラ芋のよこ 又貴者種多くかく油者ハ油とす  
不能類とくくは髪と生け常人我國は多る髪  
白粉とるる蓋借ありしとて髪よつる高月ハ我國  
の髪つげといふひし 理髪ぬは極てむつし  
やいすねたは日といふる者人是といふ者多るハ髪と



髻コン——出らぬはつらり髪をさぐる出づらといつても他は  
金カミヤル度人の剪髪する事とある

一婦人の紅粉をつつ粉は落つてとて中まで拭き去る

又赤頬の紅とこのひあは燕支と淡くつく唇まつらるるは

國人も白唇紅こつんまき子ありといふもろく思きめの

列——髪は赤——髪は黒きめのハ面色も又や白くは

一國天主教と奉す凡魯西亜に属するも同法一流小

して別流あり事あり——天主教と名する國といはれおま

ハ各自は別流之王妃ありお國より正ふ必宗門と改て

歸トツグとせ

一天教唱する呪のめきめの光るまは言佛といふ言佛なりと

いふまゝやオスツポチポルイ先と標返して——唱はし

外國の唱は其國音より各まじふ

一天教ハ昔外國よりこ法と求る

案彼志千五百七年厄カ  
西亜の教主とてマスラ

小寺觀  
と建天主の名とキリストといふ確の伏あるめく又美人

の赤子と抱りのありいこく西の赤子即キリストといふ美人ハ

母氏の名とポーニアテといふと譯するは実ハ名あるは

ポーといふ神に凡そ崇敬すきめのとポーといふ

ニアテといふ母といふものより——キリストイ生れて西亜を父

何人あるときくす普く世界と經歷して艱難と嘗悪

人ありてキリストイと悪く殺さんとらんるる百般不測ふ

して死せぬ不良のまき集りて——確たるす頭

腹四肢すして針を刺てつらぬく血流せりやまされれ

死せらるるといふ名實は殺し——巨石と為して埋む悪事既



お投——ゆるゆると収まる限あり——物の子キリストイ義子に  
て冥とあらう——碑よりくる物のまゝして升天すといふ  
是魯西亞天主の説く人々著する処の十字キリストイと  
碑する形像に天教十字と著すあり——又自碑するもの  
形ありあり

一都會ハ一街一寺村落亦各一寺ありて死葬の事いささ  
嫁娶生子も名つくるものも此の天主の命と申して是と  
俗教て是よりむくもの

一團一丈一婦の——妾と買ふりの妾當へすはんとて没す  
婦死すはも再娶戒ハ三つひも娶るはひも及も一寺に  
嫁——昔せず三つひのひより其行志等のようらるる  
のしるふあると説く——む五ふもあつては許すもの

婢と買ふ事ハ制めぬ

一女婦——て夫死改嫁す三つひあり又三つひ戒諭す不  
まうて壯うて二つひもあつてはあはれはあはれ  
とゆす但人の妾とあるもの又制めぬ

一嫁娶寺僧嫁す媒既なり約定まりぬ是ハ婚車よのり  
女家子物きかどとて——は推考——同車——先寺よ  
あるはあつて二人と引て天主のあはれお討や——めは男よ

向ひは是と事——終身おれあ——天教と奉——  
王法とやるははく自苦と事——僧老并其月する事  
あつらんや等の語とりて向事三つひも男はるけふ時又  
女子は向ひ向ふあはれはあつてはあ——といふ天教を  
不従のこ——あるとて退——めて再びはるるよ——心より











ハ堅実かゝるて走るよろろしうすといひしとて  
一二月水と激しく争あり氷や氷とて打破水とて  
あくるま至何やん清むる心まよし

一四月の事以イワこの争あり馬身鳥啄羽異ありの口中  
お刀と替ふるものと出す事ありイワこを古の名僧とむじ  
は怪物ありて人民を悩むと彼僧の依りていふイワを  
あつらふ

一三月末大祭ありキリストイとあはれは祭の懺悔の事と  
そ法各々事と訪天のあまを和尚ありし終に犯し  
て。随思と悉くふりし傷をさすまよし散りて官部と  
ハ中事よむるに王大臣とてた必しをつとむ光たまり多  
なる悪少年等及淫婦女我ハ年来父母と四馬又ハ撃ち

ハ世道如何の事竊に沈吟し恐懼慎懐の事ある故何そ  
よ海とよしやあつらふやとて皆振舞ていふいふは罪  
をらしてえ清むると言ふに信するにめび此祭ち後二十日  
の間百工ハ工とやめ曲居ハ未和とまて休むるに是れ  
何そ志のひてつとめさるやと問ハギレヒと言ふ我俗に  
勿怖あまはしといふあゝあゝとて洗ふ事とて  
足を洗てギレヒといふの教とホカナイとハむさびといふ  
もの

一四月ニコライの祭あり是れまよしこの名僧と  
一七月オリヤウの事ありオリヤウと西の教とソウホル  
といふハ王の事とて尼寺とソウホルよりけりものと王居とやと  
て説き聞いそんまよしとて王の墨股の章とあるもの



一國死刑府刑なり官一罪なき者ハ金銀銅の空匣中より  
徒とすむ終身ハ三度ハ黥身次ハ折耳取一百より  
一十より一十庶人ハ子ヤことぬりたる索よ木の柄と付たる  
物と用て折友人ハ柳條と用庶人ハ單ある繩の  
と足板の首をせと足せしむ折車十餘ありて繩悉  
く破き血流を注寒の候ハる候ハ血流を凍る官人ハ羅  
紗の衣の上より折す入て左右の肩より肩へかけて折り  
柳條の末を膝より折り皮破血流を不傷して地よ付  
きても喜ぬみこころをやめ杖と不用ハ皮を刑して  
骨を刑せざるの意ハ凡折の法刑人とて心よまき一の  
吏より騎一奴とぬきさるるゆは持先と振て左右より立  
監す折百ありハ罪ありて未改りの百人と五十人つた左より立

刑人の者傍と行るは各一折つすは折折多罪人  
かきぬえ錢へんも注みせめて折しむ友人ハサシサント  
よりハ折ハ折刑ありたはも罪人ハ折する事ありしソウ  
タテハ折しむ折法ハ同しハるある鐘鼓琵琶三  
弦笛笛はチヤル  
ハナリ等々と合奏あり喧しきこころハ樂等を執  
るものハ折しソウタテし

一刑罰等の下まてハ罪と礼明するしハ折二三百までの  
るハ折す千より一より折ハ必都く返りやうて改とく  
一罰を者シキハラフ  
シキハラフ罪ある者都すめして囚居せしめ詰問  
す罪の輕重を按ひ囚居日數多き者ありて囚の折傷と  
しむ折る者ハ庶人ハ折ハ既ハ折ある者ハ罪  
減する官より減す



一 黥ハ右目下徑一寸許ヲ輪とほリ又鼻の左右と殺て  
 さら罪の輕重をより先一方ヲ黥し又一方より鼻  
 尖より殺し先一方より重て又一方  
 よりより重て初重罪を犯せハ四寸と  
 一時より重て黥の上なる者ハ多ハ  
 人の奴とある主人も又先と好て供ふるに何とあるを先と  
 心と改め沙比と情りのとと



一 罪重き者ハ獄を至刑足せざるを差出さるるを不赦日こよ  
 殘こたを給す別な食とあつた三文食よりさらす足させ  
 成引て雇働し又街を出て乞巧罪人兩三或ハ日公  
 張系も合すもをほよ更ほて田畝を耕し街衢を乞し  
 乞の群とニコセポロセとあ返ししふ光を更々革とてん事た

ヤツポニコロセポロセ

一 刑は卯まあり又不行の子ハ父母官を訴て徒とす或を  
 三四日より十四日ある後日一食親戚等友の内より  
 竊り肉を乞と務らふ木石と擔しなすし使ふるの  
 よし又不肖の子と長ふるあり或ハ踰月或ハ踰年  
 ありてよりするに皆友を誹ふに等ハ皆刑あるに  
 一 贖とせしむるにむるの先公法志らあるに私に和融を  
 求るのそらひしむるの私に和融とせしむるに和融す  
 一 名例粗わりのことし程詳あるをよししむるに和融す  
 一 邊境海濱おのりまらぬ志らぬ國中おてハ亡命者といふ  
 りハか戸籍ハ改分あるを越えたる外國人といふも  
 用事改分遠よりと旅するも出ひるを制するに和融



國人の志のたふは遠くをまはるも限なきなり。出の方ふても  
おぼするもあはれむを忍ぶ者なくつらむもしあありて限より延ぶ  
事あるも其申すやうの事ありまふて友の改とやうにせむ  
の法に引かむと亡命して投すなき事あり  
一乞見あり我國のめく、裸体又席をよとさるるものなり  
又やめるまきのめく、風土寒をなす  
一盗ありしごとく山はあまきまきく、盗と聖模する所の事  
終てあり、又風土を涼なるあはれむさるるも又奴僕をが黒四の  
類とくくし、一盃の酒は換ふ所の事とされ、老人をあかくして  
罵れとまふるもあはれむ近きまらるの酒はあはれむ、果  
しては別まらるあはれむと侍にまらるる、ゆり官を許すはあはれむ  
の刑あはれむ許さるるもあはれむ

一國任使等の風俗を、頗あるごとく我國をのめく、まらるる  
或は酒樽をよそ破ゆい、やもすねお園より五物を牙  
寸強と不帯ハ傷も稀く酒を、てああふ志あはれむ酒を  
もよそ帯し、ててて居るも、互に力當進うこと、やむ事  
擲傷つらる事あはれむソウタテをり友よつてりて法より  
より、なすも誰もつらるるものなり

一癩癩小疹と患るものごとく、まらるるものなり  
一博奕ハ不帯王も大臣も寡敵の折ららハ必は、或は又王子  
大臣を、四馬六馬の車と繫て酒樓に飲高賈のこと、ま  
者も同あはれむ飲互は博と完く不嫌や、り財物、  
賭らるるも王も志、り但酒樓あはれむ不登比る骨牌と、  
賽と用らるるものなり、又イギラ井と、不或あり五色の玉と







純のあらん限り通せざるをなす。其内も五帝洲ハ程更  
あり。其内もキタイ既ニ海。其内も只ヤツホンスくるハ今も  
不通。其内も説ハ志。其内も。其内も。

一 高貴の家の婦人女子は其の國の語を其の國の語と  
多くフランス スエツ イギリス フランスの語と其の  
是ともて風流を其の國の語と其の國の語と其の國の語と  
其の國の語と其の國の語と其の國の語と其の國の語と  
其の國の語と其の國の語と其の國の語と其の國の語と

一 光を其の國の語と其の國の語と其の國の語と其の國の語と  
其の國の語と其の國の語と其の國の語と其の國の語と  
其の國の語と其の國の語と其の國の語と其の國の語と  
其の國の語と其の國の語と其の國の語と其の國の語と

ニヤウ皆也 多也富也饒也 又ヤウポンスコイ 日本國也 ゴロク 金也

スエズ口銀也 トオナ多也 盛也 金の代價は造りたるをハイニヒ  
リヤントは光を其の國の語と其の國の語と其の國の語と

一 ナリニキニ其國の貴族はキリロキホーニカ 其の國の語と其の國の語と  
子と不賜エナラウ。ヘリトニルセウウ室子の母も又其の光を其の國の語と

トカ客也又ステテート不拍也サチイン 其の國の語と其の國の語と  
蓋持子は其の國の語と其の國の語と其の國の語と

一 日本とイギリスとを國人オストロノと稱す是其の國の語と其の國の語と  
其の國の語と其の國の語と其の國の語と其の國の語と

一 イギリスと其の國の語と其の國の語と其の國の語と其の國の語と  
其の國の語と其の國の語と其の國の語と其の國の語と











別あつたのやうに光を更にと送り来りし事既に船を出す  
 親朋あるは流涙して別る中にある事又天上の  
 名を叫んで啼く又父母等の名を叫んで啼く天教唱ふる所の  
 如き事を唱へて銃を發し人々皆めり天主を叫んで銃を發  
 妻子兄弟おのれを呼んで發し漸く立ちて止俗すて喜  
 あれを銃と名離別は銃と發するは父母妻子兄弟まで  
 近親朋友の死は安穩無恙と祈る心のよし既に極東地子モ  
 ロより若くは地方を居る人々皆銃を發し是を銃と名  
 と兼るやいふは其志をわたり我國は海軍も海軍に入ると銃と名  
 漢まで又銃と名してこの事言ふ平日も此ある時ハ必銃と名  
 一ミロンステツパノウ井チビリチーコーフセレザントといふ近代の名醫  
 なるウオトニヤの國より種痘の法と傳へる國中より度む

其法いまだ痘を患ふるおつても時をみてその膿の血とさ  
 して血を出しその血を何やらん薬をつくらせぬ熱して忽  
 痘と名する痘の毒おは毒の有る事あるは是より  
 の後拳國痘と名して死する者あり一人面痘痕ある  
 者ありミロンク見カビタンとてカムコヤツカの賦役と目する  
 彼人こそ名をバステツパノウイナヒリチウコーフ  
 一フラーリといふ人其フラスの人名を各画に記し其画工の  
 用也満州より海軍をいふ  
 一人各肖像と画く事を好むキリロ光を更う像と画く  
 成せり千文金七十と其貝せりといふ  
 一キリロクスメウエチラウクスニボーコーニカ女王と曰國より  
 傳通す義あるものなり別女王の師より光を更うれふ



あつてはくまら通偏よ彼ら推挽は固く我國をゆつとせらる  
 されは僅返多くキリロよ仰ひ——キリロふやあす奇石と入る  
 事物と山石よ奇き——水辺の石奇稀ある中真奇奇物  
 と拾ふて石の革は鉄とつらなる物とてあはれものよよとて  
 折らる石碎く必中は奇状ある物と志くはれものめく合せ  
 て採収て玉は鉄すも又見捨てようするはさすきつ  
 又山と引て流泉あると入る必人として硝子の壺は酌  
 しめ又貯る所の水とてその砂とらある水の中は水許を金ハ  
 そ水忽緑黄赤紫あるとて合をすはれものよの壺とて  
 真山金銀の氣有とて入る事の一——キリロ子とアダムキ  
 リロウエチラツクスニボロツチノといふは同一よはじり只やあはれもの  
 知るものよとてあはれものよとていふは同一よはじり只やあはれもの

一ギヤニニは彼國最貴なる先よいゆめのか——いふある命令令ホとふ  
 くそ用よてゆめのかありともギヤニとて入る事あらはれ事とて  
 控て速よゆり事とて兼て令——壺子のよ——壺瓶は在  
 は政人入るも敢て不制ギヤニとて入るは壺之メクリ  
 と揚るはの河例の役ありとていふは壺とていふは壺とて

面 女主肖像

背 王へトル之像

一煙草ハ貴人よあらはれ煙と吸ふるか——只細末のて鼻  
 の穴よ入るるハ平日のて不純煙と入り貴人よの喜  
 唐人のハ煙と吸ふる不能鼻の穴よ入るハ先人  
 もあす之光を彼國と許す時ナリとてこのハはハ  
 キニ錢は煙草と小管よ入るは我玉とてハ百文の  
 らは國人はとてスクリノ五疋よあはれものよスクリノ

原本圖あり



羅紗の一疋を國の正間物たる

一齒くきあつて歯終つたあま老よあつと歯あま  
かう一牛技の骨を懐てくくらふる或嗜日わ人の歯を  
又くく老いといふ

一モスクワ。ペテルホル近道まタ、リコといふ異俗の民ありて  
すむめより國人と不齒婚姻と結をす邑落を別す  
たとい唐土子蒙古回くあつて住居一我國の屠見を  
の趣よ頼ず然も彼の子を奴婢となすの樞神のあつ  
いとも不嫌タ、リコを衣服男かまは釣はく死かか上  
よ二尺半の袖と裁き髪もそまよあつてさく結上るよし  
一イルコツカをブラツケトニクスといふ異俗すむ又魯西亞と  
不齒邑落するあつととい角は他る

一チキリカムニヤツカまはさけの皮と靴一窓とる硝子  
令しきあまうといは四のあめの造り指の穴を空かその内より  
あつと造る物一ニ階三階はもすねて穴中へ外へ上下す  
か位まある指は造る事といはあの方へ角まあつて

一チキリあまチコホコといふ異俗すむ是又邑落あつて平民  
と雜居せず

一カムニヤツカあかカムニヤダといふ異俗あり

一ヤコウツカハヤコートといふ異俗ありヤコートカムニヤダ  
目睹<sup>ヒトミ</sup>も髪も髪一ヤコートは牛糞といひて屋壁と塗  
馬と牧息すつとむあまを時ハ多く裸体の男女も  
前のふと皮を捲ふ又馬乳を飲すて邊鄙といふ  
狐兔熊といひ蹄をきくものども食ふ右のブラツケトニクス



チユホコカムシヤタヤコートの類ハ近く我蝦夷の如し  
従来は長谷尾の如く一匹へテルホルのタリニコとチユツクの  
長とホーコーニカオの雷の雷と賜ふはものたき初めて  
我國のうんとんとおけて食ふボートルニスコといふ  
一 只ヤコート幻術とあるものを五ヤコーツカカおふんとすは  
三日ほどあつ大河あり氷合すれど海は痛なり氷解  
ゆへ又氷とあつて海すくすく時氷始て解るあつて  
る氷海はあつてを解とあつて海はくく三日まで滞  
まゐりの女柱一喧し一光を更等怪て婢は問はる言  
て是れを一まゝ人幻と学あかすして幻と学ふのあ  
ひけ患あり不好事といひしとく

一 又けはよの乃は乃方乃雪皆乃方角とあふヤコート幸は逢

小敷す老とて惑いさるあつてあつたを標るあつて  
子奴の上のえ松の枝は馬皮を掛く奪えするの形の如し  
是様の及ぶあつて幻のあつてあつて一は幻只ヤコート  
少浪事とあつて他のまは俗にあつて本國人は絶てあつて  
一シビリオホツカなる別てあつてあつてあつてあつて  
是ハ不堪狐尾といふりあつて一面の皮はこつてあつて  
さるあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
又是とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

一 アニシツカを光を更ホウ初てあつて島は長七里程三  
里とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて



の根とつきとされ水と根とのむ又厚の卵とて食ふ又水と  
とて魚とて石を礎て其の根とて一本とてあて矢張り  
矢一本と仰ふは七日八日と費す其根と根とあて其根と  
小投又草とてまきて船と仰ふ是はまきてあまのり花をよ  
及ふ男七二人女百人船ありき目録ありき一魯西  
亞の人と仰ふは来る島は長を具名とトヨノといふ  
本は流れありのと拾ひて其新とす草草多し拾ふとも  
みてお上は雄黄とてまきて石とておて火と出し焼  
火とウツカといふつるものとアカチヤカといふ厚の岡の岩  
あり卵とてまきておと火と仰ふは小島ありて雄黄とて  
雄黄山の小島あり及ふ火あり其島ありて雄黄とて  
本は天主教もいふと不行

一カムシヤツカハ焼山あり大なる山之國中の麻の根を以て  
て寒たの時は以てあてまきて其より本集るは時穢する事  
む易し

一オホーツカの郡官ゴロヂンウエチウ宅に在り時此等の時  
物は船とひきて日よまきて出川用ありあり其物を其  
初するはおと火とまきてまきていさけ魚と乾て其食し  
むカムシヤツカヘトルガアル子キリオリシヨツカの途に  
あり船船とて其僕とてソハカ大セサツポーレイ舟とて  
といふ僕とて度し畢てオチヨシといふ子とていふは大三四  
又五といふ人といふ人といふとひきてあて其子とていふは  
等のみくらひくまきてまきて其ものいふはまきていふは  
ホガくといふは右旋す毎の大



も物いづるもの光を更なるタリ〜ホガ〜してしめていきら  
さるるを

一キリロを彼國にても行儀の〜威嚴あるものもある田舎なり  
ナ七國の事よ情通〜さるる〜或時光を更おに人よむを  
汝國に月極大暑を盆水いふそ元節〜子志よとさ〜み  
警〜ま〜と〜てんせらねてキリロ大いかりそ進ハ西南國の  
事〜日本ハ三テ度より四テ度迄の國〜と〜入〜程  
よ記ほ〜事あり〜し汝必之の理をひて人と歌く汝家  
あよ出そのあふね〜て〜進〜光を更〜我國〜ゆ〜ん  
するあや〜〜よ〜〜〜〜汝〜の事〜の國〜ハ  
〜〜〜あ〜〜の〜

一光を更汝國の語を更とあるふ小女の事より〜を教ゆ

光を更は汝國の語を更とあるふ小女の事より〜を教ゆ  
ペービゼデア志ん〜いひ〜んよ必ゆるあんといひ〜ん  
キリロ子侍坐する時志まりよ〜を誦〜〜い〜ま〜  
る〜あ〜い〜キリロ不喜顧て誰よあ〜〜る〜の〜  
いあ〜と〜今愛ある〜と〜言〜ハキリロ作色〜  
怒〜女と校せん〜す女よく踏とり走りぬるキリロ程  
進め〜り〜り〜ペ〜ヒ及ビゼデア及ズダ則ビズダを女陰のひ  
かり光を更由時音韻及切〜〜〜後〜〜〜  
腹子場〜〜〜い〜り〜す〜汝國字寛分〜〜〜方國の語  
て字す〜或ハ教字とるや〜〜一音と均又教字と輯て  
一字と作る我邦より唐土の字と譯する後ハ一字〜  
足ると〜た鶴と二字鴉ハ三字鶏ハ四字の類なるを



彼ハ杜鵑也孔雀も一字はゆりこまよふりて梵僧の唐音  
よ委しき事むて我國竹字タケとよみチクとよみ日の  
字ニチとよみヒとよみ朔日ハツイチ晦モツゲモリとよみま  
て疑ふいふよ諭せとも言はすものあり一況や假借圈發  
こまよ和讀とそ一文字ありて教すとあぬるものとてい何  
といふむ

一 光を更彼國を在て入るるもの鳥よハヤ鳥鳥在燕鷲鳥  
すて小鳥とピチイワとよふ獸ハあざらしツクリ 熊メチ抗リツ  
獵席 オロシヤ ソウボラ 兎 ウシカシ 猿 チロシヤ オビヤシ 嵐と二匹見  
たり皆我國をて入るる嵐とよふ小嵐 キリス 猫ハカ 光を更  
る形よハヤをて一猫とカムシヤツカよて人々争ひたり又船  
具をよの品も争つて讀ふされ誰よよてよまや志るハ只

恐く居る困りしと也

一 湖ハ鱒多しイルコウツカハ居日の夕よハ女子賣物と頭  
上よ裁来卵熟乳ハ女のよ賣卵とヤイツとよふヤイ  
ツダーと長く引て呼ぶ又ナーダーとよふ二字ハ義同し  
賣物と人よ示の声のよ賣とレーベとよふ大湖の侍也  
レーベとよむと賣

一 ヤコウツカイルコウツカの河よ二三尺斗の魚多しあり人  
教てゐるのあり 形状刀劔と飾るサメよ似たり則サメ  
カウダとよむとらふ

一 コーヒチとよむのハ熟角とよむ二尺位あり形



如此ヤコウツカの北隅より出むる一 通天岸も難しり夥多馬よつけて諸方よ送る細工よ



しして象牙の鬚を鬚す鹿角ハカムシヤツカ 山中多  
き行路と妨く人棄て不指

一 蘇木をトロツカトロツチクの國より來る

一 イルコーツカの湖ハ長き我國の及まへ八百里ありとて王都  
登る及まへ湖邊百里許は温泉ありこゑは浴せらる  
とて光方史ハは湖と称す或る地付キリロ光方史を顧  
笑ては湖ヤツホンスコイと流るしといひし

一 キリロ硝子の竈電と持てまろく玉と造らせし湖より滿  
洲より送り硝子物布帛砂糖糖綿布等と交易す硝  
子の六十度より南よりして火力不極白石燭より出たり  
ペテルホルの名制衣し

一 初光方史ハ伊勢と出 一 大垣之辰の真方方やらん雛人形

の入り長持と交えて亦移入より彼國よりとて櫃蓋  
なりし國人見て稱す小椽なり酒蓋も用也九曜の  
文ある雷とあるは字を指す日本の漆器といふ悉く是を考す  
事し

一 キリロ光方史と詰りて汝ら生國伊勢の大廟は末社扱百五  
と云誠なりやといふ事不詳なり 言はれは何れを崇す  
所斯多や又京の三十三間堂は佛の數三萬三千三百ある  
より 志るや光方史の言すといふ我國志らるる事と云  
し 又宗門八宗をいひ何れといふやと問 禪天台  
一向真言おはのりといふも八宗あるれれ宗田は不記と云  
六汝ら國めは信を礼すまことの事し 何れを人心に  
成理するの好くといふ事し



一又キリ口汝ら國死刑あり又自刃するものありといふ  
 實は志ありと云ふ又多罪を犯し其身自刃して公法  
 とて處して海やと聞ふ身既に死してあし公法といふん  
 ともあつゝぬあま故すむことと答へては天子の父母より  
 父母をいへとも子と殺すのあはれなる上天子をす天子  
 下民と殺すよりあはれなる人民は天子のものあり人令  
 汝天主よりて天主のものなりて身自分殺して可なりや  
 自殺して犯罪償ふものとせばいふらざるあつては汝の  
 國よりきつて自刃と潔くする國あり命を志らざるものと  
 認むるは彼國よりキリ口を命の人と交りし間は二事の  
 外我國と怨むるものとるべし

一又汝ら生國庄野 石葉野セウノイシヤクとの間路よりなる河あり

さて方を問ふ光を更さるるさうりてを不知と答へてはキリ口第に君  
 たり汝國の故をばしは誠は生先おの法塔業人かあしは歎し  
 一彼國より桂川南周中村淳菴と事と志りて何より知りて  
 ぬしと問ふ光を更さるる業人江戸來りしは病て既に  
 危しし時南周業とて快懐しうけかびタン業人はあらば  
 實ハスエツの人こむ業人よてもペルホルへ往來すれハスエツと  
 相志ししきか二人の名を唱へし彼カビタンを江戸をえんとて互  
 來りしに淳菴もこの對話の面白き事ともいひつると見ゆ  
 業人しつと心は居て何國の人來らんも志りしは子  
 業人は日本の通辭を制し其を子夜せざる通辭は  
 あらぬ國の稱をわけて通辭をよこはらするあはれなるあり又  
 彼より地方の通詞へトルなりしは爵位の振あるものを



授する或す通年其は是とペトル格ありし事其の望も他  
ありし利を以て制する之常人の心あるさぬものありし  
一キリロ又或時月中は教のこゝに在りて日本より何れい  
と問ふ光を更あまの鬼を奉と蕃と申といふキリロを  
まてもありやちうきこひといふ光を更何の書ありや  
穿鑿金せずといふ奉國一定の設のようといひんたキリロ  
第てあれを地球の教のういふとヤツポコもあの中ありと  
いひま

一彼國史と云はれし人を殺しし事一聞談の外志あり  
又も又殺されし者鬼とありし事も火災に絶てあし  
といふモスクワの都悉く焼亡しし事も又この國よ  
て中身の英主と稱するペテル其子と殺しし今の河中の

船の上層の窓より戸と河水は投しし事より出て四海一千里  
の外に周遊しし功其館切勲絶倫あるを以て神明の如  
く稱す是今の彼國人の口碑に傳ふるよし光を更もし  
是とまてキリロは礼を必設と他て言ふありし  
一光を更彼國より賜とありし時脚疾ありきアダム使の令  
をも會はれキリロを其の事を語るよき序なれど湖に浮て  
満洲より北京と入てけしといふアダムも光を更も其を  
しらキリロを妻とカテリナといふさうきかまて硝子の  
事ありしもキリロを不拘等風なれど自傳書籍を以て余  
計をも考りて差圖する程の志あり光を更も脚疾ありし  
城をの迂回なるをいひて海路もはなれり  
一オホーツカの縣官イワン・フョウトロウエチ・クリン・ハハ



教つりし彼國よなきものありて面白がりしと云へば思ふ出  
來りし所尺八ともやうてあるし

一 光吉更々オホーツカより海人とせし時初まかこよ奉じし  
因の程一ツありイワン光吉更々向ひ程獲ゆえに官よ  
賣らる我よく計やんといふ光吉更々諾し進みおハ母よいふ  
程一ツ程のゆ我よりい言せし程といふ母の名とカ  
テリナキシモーナといふれは此事と語りて程一ツある夕慈  
飲の時母の程の事といひ官よりおえの直とありりるハ  
光吉更々お行路の用意と云なりと言せし程一ツありイワン更々  
フナリハ豫め<sup>フナリハ金財</sup>と云官<sup>と云官</sup> フナリ程する事ありし是よりい  
相談せしや光吉更々おハ不知し明日ハ續て解と云目よ  
あり官より光吉更々といふ事あり其直とて銀五百枚と出

与りし是より大いイワン志ありき

一 オホーツカと九月十三日よ出十月十七日ハ蝦夷地の子七  
口ハ悉す我國の九月三日よりいふ程あり程一ツも  
光吉更々風色と云きし程一ツあり天程は暗く星斗光烈  
測りし程一ツあり山程はつんどの程一ツあり何のかりりる事も不  
いひし程一ツありと抑て程一ツあり故國と云すや明日ハ  
あり山程はつんどの程一ツあり同いふ事ある事もある程一ツ  
不知し程一ツあり果して子モロよ入はる程一ツあり事更々  
と向し程一ツあり事ありし程一ツあり初めといひし程一ツあり  
ホーツカの生れよてサハリと云ふ程のり六十條の老し  
アツケしとありし程一ツあり時ハ時ありし程一ツあり  
の皮と云し程一ツあり事ハありき



一 オホーツカカムシヤツカなるの海濱ありブルムサイといふ  
邦あり是ハカムシヤタヤコートの類又ハ平民の如きも  
不良あるものハ船乗り事におひつる者もすして遠海邊  
島の所々容易に訪はるるものとやするもの勿論を以て  
其上は高人ありて仕入の禮ものなきを諸員よき賈賈  
元ヶ旅の事形命をすの輩を雇て使ふに唐船よりハ  
漳州我國の舟乘ハ皆ハ訪はるる者又是は邦にあはぬ  
似たりいふものもいふに遠くは馭邸の雲助が粗似たり  
是ハハ先くもてもよくぬ振也とすものなり  
一 アタム等松前より入る一州てむま三艘出たり一艘は  
けやき二艘はくすの本の邦へアタムより入てありアバラ  
セロウと稱す者嘆息甚しアバラを樟セロウと本は

又大坂の船アタムハ船より遠く入りて又樟本を以て  
ハ益者矣一は樟本ハ寒國なり元來ハつるものなり  
かきこもつる事とも目ハきつるものなり  
一 松前より入りてアタム地所よりエナラウありといふエナラウを彼  
國よりより東四上の爵祿の物と只エナラウといハ我邦にて  
諸侯といふ如しといふ松前氏地所を在る兼てきふぬる  
又五まし来りつるものなり始て信然せし趣又松前  
にて松前と蝦夷と續きつる故に其國を以て他りし  
地圖誤まり改正すしといひしを又松前の養を以  
の外に稱し其稱せし家柄も大なることほのし  
只暑熱といふてハ不堪浴所に入りて即ち水と湯と  
大息して能く居たり地所アタム等京都を來るものと



影の事志きりありし六光太史等けりてかく炎蒸に困  
いさしき事都下場人やといひし六始て然し其より狂  
度故四五と隔む六其苦知るし度故をえてさひやり  
しより目者ハるころといひしとせし

一 此時奥列大名警固の船を多く出さしめて船子とも  
悪口より日本までいさよ我れを畏るや我國までハアラ  
ツハカ多てへテルホルの商人ハ大銃をおろしけりし時天子より  
又一卒とも出さず一使ともやらすありしとて日くは罵りし  
言語通せさせし事ハアタムを悪声ハ出さる事とていふ愚  
かるぬるちひるかたきむじいひし

一 竹ハ彼國のありしアモこといふ場邊ハ珍産す世主の竹杖イ  
キリス持来て賣値千金とて本末いさくも太細たのし

一 薬とゲカルスノといふ薬舗とアクチユツカイといふ薬物ハ使ひて  
賣ア。ヒチユカリといふ

一 狐狸の人とていひし妖とて死者の鬼とていひし靈とて  
いさしき事とていひし人々怪しむ人の死する時ハ魂の飛と  
いさしき事とていひし狐の事とていひし狐狸の妖の事と  
いさしき事とていひし狐狸の妖の事とていひし狐狸の妖の事と  
いさしき事とていひし狐狸の妖の事とていひし狐狸の妖の事と  
いさしき事とていひし狐狸の妖の事とていひし狐狸の妖の事と

此條原本  
十三ヶ條  
前在



美和所共  
子中集

Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, covering the right page of the manuscript. The text is arranged in several vertical columns.

126673



